

拜し官安峽縣監に止まる曾祖豹庵の餘韻を襲き詩書畫を能くし時人三絶と稱す詩は最も其の長する所なり而し門地微にして才を伸すことを得ず哲宗戊午に歿す

○圭齋遺稿

六卷 南秉哲著 板本

本書は南秉哲の遺稿にして弟秉吉か李太王元年蒐集割刷に付したるものなり詩文の外讀書私記を收む秉吉の跋に曰ふ公素と經學を尙ひ詩文を屑しとせず中年に至り専ら心を象數に潜め奧旨を精悟す眞に曆算家の津筏なり風詩二篇文章四篇海鏡細草解十二篇推歩續解四篇儀器輯說二篇並に印して家に藏し遺集中に附せず云云と南秉哲の小傳は子部儀器輯說に出つ

○石世遺稿

三卷 金鼎集著 板本

本書は金鼎集の遺稿にして其の子石菱昌熙か蒐輯せしものなり載する所詩疏教令祭文進香文箋文上稷文墓表家傳等なり李太王己亥其の孫教獻之を刊行す

金鼎集字は九如石世と號す慶州の人敬獻公思程

趙寅奎字は伯三斗南と號す咸安の人なり純祖甲戌に生る

○又玄齋詩鈔

一卷 安晋錫著 板本

本書は安晋錫の詩稿にして其の子鴻述蒐輯し李太王辛未之を刊行せり

安晋錫字は孝升又玄齋と號す順興の人五衛將時諱の子なり正祖癸丑に生れ哲宗己未に歿す門地寒微なりしも文學に勤め盛名あり

○晚義集

一三卷 梁進永著 板本

本書は梁進永の遺稿にして從曾孫在慶の蒐輯せしものなり收むる所賦辭詩疏書雜著序記跋箴銘頌制誥贊上稷文祝文祭文傳論隨錄附錄等なり李太王乙未之を刊行す

梁進永字は景遠晚義と號す濟州の人酒隱居正の玄孫なり正祖戊申に生れ哲宗己未進士に中り庚申に歿す蓋し挽近百年の間全羅に於て經學文章蘆沙奇正鎮に亞く者獨り梁晚義あるのみ惜むらくは舉業を廢し遺逸を以て薦められす一進士に終れり

の孫なり純祖戊辰に生れ乙酉生員に中り丁亥文科に登り翰林待教直閣を歴て官禮曹判書となり哲宗己未歿す諡を文貞と云ふ子昌熙文を善くし石菱集の著あり

○果齋集

八卷 成近默著 板本

本書は成近默の遺稿にして其の孫斗鎬か蒐輯せしものなり收むる所辭詩疏啓收議書雜著序記跋祝告文祭文墓誌銘墓碣銘行狀事實遺事等なり李太王癸未の刊行に係る

成近默字は聖思果齋と號す昌寧の人縣令鼎柱の子なり正祖甲辰に生れ純祖甲子進士に中り壬申蔭仕を以て北部都事を拜し府使を歴て憲宗戊戌に抄選せられ經筵官を拜し官刑曹參議に止まり哲宗壬子に歿す吏曹判書を贈られ諡を文敬と云ふ牛溪成渾の後孫にして家學を承け學問行義近世の醇儒と稱せらる

○斗南詩選

四卷 趙寅奎著 板本

本書は趙寅奎か自己の詩を編輯したるものにして李太王辛巳其の門人金錫九之を刊行せり

○石見樓詩鈔

二卷 李復鉉著 板本

本書は李復鉉の遺稿にして曾孫寅應初名晷の蒐輯せしものなり收むる所詩各體及上稷文一篇あり哲宗丁巳之を刊行す

李復鉉字は見心石見樓と號す全州の人綾原大君備五世の孫なり英祖丁亥に生れ正祖丙午參奉を授けられ官僉知中樞府事に止まり哲宗癸丑に歿す詩を以て一代名流に推獎せらる

○邵亭稿

六卷 金永爵著 板本

本書は金永爵の詩文稿にして李太王二十九年子道園金弘集之を編輯し活字を以て印行せり

金永爵字は德叟邵亭と號す慶州の人壽谷柱臣の玄孫なり純祖壬戌に生る憲宗の時蔭官を以て登科し文任を経て官吏曹參判に至る清國の文士雨帆李伯衡邵亭か作る所の貨喻篇を見て寄するに詩を以てし交を萬里に結ふといふ後副使を以て清國に往き文境更に進めり詩稿の序は清人張午橋の撰なり李太王戊辰に歿す

○蓉山私藁

二卷 鄭健朝著 寫本

本書は鄭健朝の全集に非ずして但た奏疏文字を収めたるものなり

鄭健朝字は致中、蓉山と號す東萊の人竹下基一の子なり純祖癸未に生れ憲宗戊申文科に登り奎章閣直閣を歴て官吏曹判書に至り李太王の時に歿す幼より家學を承け身を持する謹飭曾て全羅道觀察使となり清名あり

○石菱集

一二卷 金昌熙著 板本

本書は金昌熙の遺稿にして其の子教獻の蒐輯刊行せしものなり收むる所疏書、說序、記、題跋、家狀雜著、會欣穎、六八補、譚屑、月城家史等なり

金昌熙の小傳は史部金氏分貫録に出つ

○仁山集

一七卷 蘇輝冕著 板本

本書は蘇輝冕の遺稿にして其の孫鎮衡、鎮恒及門人權憲洙等か蒐輯せしものなり收むる所詩、雜著、序、記、題、說、銘、婚書、告祝、祭文、碑、墓碣、銘、墓表、行狀、行錄、傳、附録等なり刊行年月詳ならず

蘇輝冕字は純汝、仁山と號す晋州の人月洲斗山七世の孫なり純祖甲戌に生れ李太王辛巳遺逸を以

て薦められ繕工監役を拜し全羅都事を歴て官持平に止まり己丑に歿す梅山洪直弼に師事し經學に深く且經倫幹局の才あり

○冬郎集

三卷 韓致元著 板本

本書は韓致元の遺稿にして其の子鎮昌か蒐輯せしものなり收むる所詩、序、說、論、啓、記、上、禠、文、教、書、祭、文、進、香、文、進、箋、疏、等、あり李太王己亥之を刊行す韓致元初名は致堯字は冬郎字を以て號となす清州の人參判益相の子なり純祖辛巳に生れ武科を以て官龍驤衛副護軍に止まり李太王辛巳に歿す致元一代の文豪にして尤も詩に工なり

○方山集

三卷 安基遠著 板本

本書は安基遠の遺稿にして其の子鍾和か蒐輯せしものなり各體詩の外、書數篇、文一篇を收む李太王丙申之を刊行す安基遠字は善浩、方山と號す廣州の人楓厓敏學の後孫なり純祖乙酉に生れ李太王丙申に歿す基遠早歳より舉業を廢し山水の間に吟哦し以て詩情を娛めり

○痴史集

七卷 安鑽著 板本

本書は安鑽の遺稿にして其の子英濟の蒐輯せしものなり收むる所詩、書、序、日記、記、跋、後、序、說、銘、箴、雜著、上、禠、文、祭、文、哀、辭、墓、誌、遺、事、附、録、等、あり李太王己亥之を刊行す

安鑽字は景顔、痴史と號す耽津の人花亭莘老の子なり純祖己丑に生れ李太王丁卯進士に中り戊子に歿す別に四七理氣、太極陰陽動靜辨及定命知命心君等の著あり

○大溪遺稿

七卷 黃在英著 板本

本書は黃在英の遺稿にして其の從子炳欽の蒐輯せしものなり收むる所詞、詩、疏、書、序、記、跋、雜著、傳、祭、文、碑、銘、墓、表、墓、碣、墓、誌、行、狀、遺、事、等、あり刊行年月詳ならず

黃在英字は應護、大溪と號す昌原の人承旨仁夏の子なり憲宗乙未に生れ李太王癸未監役を授けられたるも仕へず嶺南の地學者に乏からずと雖も實踐家に至りては蓋し在英の如き罕なりといふ

○活水翁遺稿

四卷 尹大淳著 板本

本書は尹大淳の遺稿にして其の子鳳柱の蒐輯せしものなり收むる所詩、書、祭文、墓道文、雜著、功令文、附録等あり李太王壬午之を刊行す

尹大淳字は子輝、活水翁と號す坡平の人節制使汝莘六世の孫なり正祖己亥に生れ憲宗丙申薦を以て智陵恭奉を授けられ官僉知中樞府事に止まり李太王乙丑に歿す乙亥吏曹參判を贈らる大淳關北の人にして學行を以て一郷の師表たり

○碧蘆齋集

二冊 金進洙著 寫本

本書は金進洙燕京へ遊歴の時人物風俗及景色を賞咏せしものにして古今の事蹟を援據すること縦横該博なり金進洙字は稚高、蓮坡又碧蘆齋と號す慶州の人なり正祖丁巳に生る平生作る所の詩文十餘冊あり蓮坡集と稱す

○皎亭詩集

四卷 玄鑑著 板本

本書は玄鑑の詩集にして其の孫鑾蒐輯したるものなり李太王丙午之を刊行す玄鑑字は萬汝、皎亭と號す延州の人知中樞府事在

明の子なり純祖丁卯に生れ蔭仕を以て漣川郡守を歴て官知中樞府事に止り李太王丙子に歿す

總集類

○東文選

一五四卷

徐居正等編板本

本書は新羅より朝鮮の初期に至る名家の詩文を聚めたるものにして正續二編あり正編は成宗九年大提學徐居正等に命じて之を選輯せしめ百三十三卷あり又續編は中宗の時左議政申用漑等に命じて正編成りし後四十餘年間の製述を選輯せしめたるものにして二十一卷あり共に半島詩文の軌範たるのみならず史料として頗る参考となるものなり

徐居正の小傳は史部東國通鑑に出つ
申用漑の小傳は子部續三綱行實圖に出つ

○大東詩選

一二卷

編者未詳 寫本

本書は箕子の麥秀歌、冽水歌、高句麗琉璃王の黃鳥歌、新羅眞德女王の大唐太平頌等古歌謠を初として其の他孤雲崔致遠、圃隱鄭夢周、牧隱李穡、陶隱李

崇仁、近思齋僕遜、眞逸齋成侃、退溪李滉、栗谷李珣、月沙李廷龜、澤堂李植、東溟鄭斗卿、尤菴宋時烈、息菴金錫胄、谷雲金壽墳、文谷金壽恒、農巖金昌協、三淵金昌翁、圃陰金昌緝、茅洲金時保、北軒金春澤、陶菴李絳、圃岩尹鳳朝、槎川李秉淵、悔窩安重觀、檜巢金信謙、貞菴閔遇洙、梅月堂金時習、秋江南孝温、睡隱姜沆、重峰趙憲、老村林象德、僧休靜、雪谷鄭誦愚、伏鄭經世、一峰趙顯期等の各體詩を分類蒐輯したるものにして寫本なり

○海東辭賦

二卷

編者未詳 寫本

本書は高麗の李奎報、李穡、李達、衷李崇仁及朝鮮の徐居正、金宗直、成侃、南孝温、金駟孫、李齊、閔齊仁、金麟厚、李春英、李安訥、趙續韓、趙希逸等の各體詩を蒐輯せる寫本なり編者年時共に詳ならず

○海東遺珠

一卷

洪世泰編 板本

本書は柳下洪世泰か朴繼姜以下凡そ四十八人の詩二百三十餘首を蒐集編成したるものなり世泰の自序に曰く金農岩嘗て余に謂て曰く東詩を刊行して世に問ふ者多しと雖も而も閔菴の詩獨り

闕け泯滅して傳はらざるは惜むへし子其れ之を採輯せよと是に於て廣く之を搜訪し十餘年を積みて編成る名けて海東遺珠と曰ふ云云と以て本書の内容を知るへし

洪世泰の小傳は集部柳下集に出つ

○海東樂府

一卷

沈光世等著板本

本書は沈光世等か明李東陽著西崖樂府の體に倣ひ兒童教訓を旨として作れるものなり光世の序に曰く予偶々西崖樂府を讀み其の辭剴切にして引事比類能く人をして感發興起せしめ初學を補ふ甚た大なるものあるを受す仍て東史を閲し其の中に就き賛詠鑑戒となるべきもの若干を採りて歌詩となし名けて海東樂府と曰ふ云云と以て本書の内容を知るへし光海君丁巳の刊行なり沈光世字は德顯休翁と號す青松の人義謙の孫なり宣祖丁丑に生れ辛丑登科し應教を拜し光海君己未固城に竄せられしか癸亥反正に當り校理を以て召還せらる仁祖甲子李适の反するや行在に赴かんとして途に歿す

○龍飛御天歌

一〇卷

正祖命編 板本

本書は元と權踞鄭麟趾、安止等の進歌にして述ぶる所皆史上の事實なり後世祖の時に於て崔恒、朴彭年、姜希顔、申叔舟、李賢輔、成三問、李墀、辛永孫等命を承けて之に註解を加へ並に音訓を附したり世祖丁亥の出版にして序は鄭麟趾、跋は崔恒の撰なり

○國朝樂章

一卷

英祖命編 板本

本書は英祖の時洪啓禧、徐命膺等をして編刊せしめたるものにして宗廟樂章、親耕樂章、觀刈樂章、親蠶樂章等を收む

洪啓禧の小傳は經部三韻聲彙に出つ

徐命膺の小傳は經部易學啓蒙集箋に出つ

○觀刈樂章

一卷

趙觀彬撰 板本

本書は英祖丁卯親臨觀刈の時趙觀彬か製進せしものにして樂章二首あり

趙觀彬の小傳は子部續兵將圖說に出つ

○風謠續選

七卷

千壽慶編 板本

本書は千壽慶か英祖丁巳昭代風謠成りたる後に

於ける三百三家の詩七百二十三首を集めたるものなり前編は五七言古體近體等詩體に依りて類選せるも續編は閱覽の便を圖り作者を主として各體を併載せり刊行は正祖丁巳なり

千壽慶字は君善松石道人と號す錦溪の人なり能詩を以て知らる

○風謠三選

七卷 劉在建編 板本

本書は初め英祖丁巳省齋高時彦閔卷の逸詩を採集し之を昭代風謠と名けて刊行す後六十年正祖丁巳松石千壽慶之に繼て風謠續選を編す更に六十年哲宗丁巳に至り劉在建、崔景欽等續選以後の逸詩を採集し風謠三選と名けて刊行したるものなり

○續青丘風雅

七卷 編者未詳 寫本

本書は金淨、李荇、李浣其の他諸名士の詩を蒐集せるものなり何人の手に成りしか詳ならず

○陽川許氏世稿

三卷 許錦等著 板本

本書は陽川許氏錦椿、琮、琛、槃等累代の詩文集にして尙友堂許琮の孫參贊治か中宗三十一年に刊行

したるものなり
許錦字は在中、塾堂と號す陽川の人高麗恭愍王丁酉登科し官典理判書に至り文正と諡す
許椿字は原德、梅叟と號す錦の子なり李太祖に仕へ官判官に至る

許琮字は宗之、尙友堂と號す椿の曾孫なり世祖丁丑登科し官右議政に至り陽川府院君に封せられ忠貞と諡す

許琛字は獻之、頤軒と號す琮の弟なり成宗乙未登科し官左議政に至り文貞と諡す

許槃字は文炳、琮の從姪なり燕山君戊午登科し同年禍を被る官承文副正字に止まる

○晋山世稿

八卷 姜希孟著 板本

本書は晋州姜氏の世稿にして姜希孟及晋暉の詩文集なり姪子裕後清州牧使たりし時上印せしものなり詩、賦、記、書、雜著、碑銘等を收む

姜希孟字は景醇、私淑齋と號す玩易齋碩德の子にして仁齋希顔の弟なり世祖の時に魁科し重試英試に捷ち選れて湖堂に入り官贊成に至る諡を文

良と云ふ晋暉字は子舒、壺溪と號す梅墅の子なり蔭仕を以て官參奉に止まる

○咸從世稿

一二卷 魚變甲等著板本

本書は咸從の人魚變甲、孝瞻、世謙三世の詩文稿を孝瞻の外孫尹金孫か尙監司たりし時其の外族魚得江及魚泳濬と與に謀りて哀輯校正し中宗庚午に刊行したるものにして景宗癸卯孝瞻の後孫杞園有鳳か其の弟兢齋有龜と共に之を重刊し仍て得江の稿を續編となし又變甲の父淵の遺詩と變甲、孝瞻、世謙の逸稿、世謙の弟世恭の遺詩、得江の逸稿及泳濬の遺詩を蒐輯して原編に附刊したるものなり

魚淵は月亭と號す咸從の人にして三司左尹伯游の子なり高麗忠穆王丙戌に生れ恭愍王甲辰生員となり朝鮮に及び遺逸に薦せられ官大邱縣令に止まり世宗庚戌に歿す魚變甲字は子先、綿谷と號す淵の子なり高麗廢王禍辛酉に生れ定宗己卯に生員となり太宗戊子文科に登り集賢殿直提學となり官を棄てて歸養し世宗乙卯に歿す魚孝瞻字

は萬從、龜川又は仁峯と號す變甲の子なり太宗乙酉に生れ世宗癸卯生員に中り己酉文科に登り翰林、吏曹判書を経て判中樞府事に至り成宗乙未に歿す文孝と諡す嘗て通鑑訓義及高麗史を參修し禮記日抄を撰進す魚世謙字は子益、西川と號す孝瞻の子なり世宗庚戌に生れ文宗辛未生員に中り世祖丙子文科に登り文衡を典り翊戴功臣に策し咸從府院君に封せられ左議政に至り燕山君庚申に歿す諡して文貞といふ魚世恭字は子敬、松西と號す世謙の弟なり世宗壬子に生れ端宗癸酉生員進士に中り世祖丙子文科に登り李施愛亂を起すや咸吉道觀察使を以て功あり敵愾功臣に策し牙城君に封せられ兵曹判書を経て成宗丙午に歿す諡して襄肅といふ魚得江字は子游、灌圃と號す淵の玄孫なり成宗庚寅に生れ壬子進士に中り燕山君丙辰文科に登り官大司諫に止る退溪李滉其の人を慕ひ詩を讀す魚泳濬字は彦深、松亭と號す淵の玄孫なり成宗癸卯に生れ燕山君甲子生員進士に中り中宗丁卯文科に登り官執義に止り己

丑に歿す名徳あり

魚有鳳字は舜瑞杞園と號す世恭九代の孫なり顯宗壬子に生れ肅宗己卯進士壯元に中り農岩金昌協の門人を以て學行に薦せられ南臺を経て侍講院贊善に止り英祖甲子に歿す經學に精通して德行甚た高し

魚有龜の小傳は兢齋編錄に出つ

臨瀛世稿

三卷 崔致雲等著板本

本書は臨瀛崔氏三代致雲應賢壽臧の遺稿を遠孫明秀か回祿の餘に哀輯し詩文若干篇に附するに碑本行狀を以てし三卷となしたるものなり出版は李太王六年にして増補文獻備考に見えたる金添慶著の臨瀛世稿とは同名異書なり
崔致雲字は伯卿釣隱と號す海州の人なり高麗恭讓王二年庚午に生れ太宗丁酉に登科し官舎人を歴て吏曹參判に至り嘗て使して燕に入り事を竣りて還る功を論し田結奴婢を賜ひたるも辭して受けず世宗庚申に歿す崔應賢字は宗臣睡齋と號す釣隱の子なり世宗十年に生れ端宗甲戌文科に

登り官大憲に至り中宗二年に歿す崔壽臧字は可鎮猿亭と號す睡齋の孫なり成宗十八年に生れ年十九士林の禍作るを知り世を遯れ舉業を廢し名山を遁遊して自ら娛しむ中宗十四年北門の禍に南袞沈貞等の爲に陥れられ諸儒臣と共に戮に遭へり

清風世稿

四卷 金克亨等著板本

本書は清風金氏克亨澄構三代の遺稿なり後孫鍾厚祖先の著述遂に湮沒に至らんことを念ひ合せて四卷となし割刷に付したるものにして第一は沙川集第二第三は坎止堂集第四を觀復齋集とす沙川集は雜著に過ぎざるも他は疏筭啓議多し出版年月は正祖三年己亥なり
金克亨字は泰叔沙川と號す官工曹正郎に至る金澄字は元會坎止堂と號す克亨の子なり孝宗壬辰登科し官全羅監司に至る
金構字は士肯觀復齋と號す肅宗壬戌文科に魁たり官右議政に至り忠憲と諡す
金鍾厚の小傳は經部家禮集考に出つ

豊山世稿

六卷 洪奭周編 板本

本書は豊山洪氏十四人の斷篇零章を遠孫奭周か蒐集したるものなり就中出色なるは徐夫人の才藻にして詩三十六篇辭一篇あり又篇首に各人の小傳を録し卷末に別集及附録を載す出版は純祖甲申なり

洪奭周の小傳は史部續史略翼箋に出つ

潘南朴氏五世遺稿

六卷 朴宗慶編 板本

本書は潘南朴氏五世の遺稿なり後孫宗慶之を哀輯して一書となし割刷に付したるものにして總て六卷あり第一を鶴阜集とす第二第三は世城集第四は松潭集第五は弼履集第六は師錫集なり何れも初に詩を列し次に文を録し各卷末に附録あり各人の墓誌銘行狀祭文挽詞等を載す出版は純祖十六年丙子なり

朴宗慶字は汝會潘南の人忠獻公朴準源の子なり穎悟絶倫生れて七朔能く言語行歩を爲し七歳能く賦詩を爲す正祖庚戌司馬となり純祖辛酉文科に登り官弘文提學摠戎使兵曹判書を経て吏曹判

書に至る文肅と諡す

聯芳世稿

八卷 金璉等著板本

本書は金璉父子の詩文稿を哀輯したるものにして大山李象靖之を校正し璉九代の孫龍普正祖丁巳に刊行す

金璉字は瑩仲青溪と號す義城の人校尉禮範の子なり成宗庚申に生れ中宗生員に中り宣祖庚辰に歿す璉隱居して仕へず德行甚た高し子五人皆文行に篤く時人稱して金門五龍と云ふ

鐵城聯芳集

二卷 李陸編 板本

本書は固城李原父子の遺稿を集録せしものにして李原の孫青坡李陸之を編輯し外孫尹壕か慶尙監司たりし時之を刊行す成宗七年なり
李陸字は放翁青坡と號す固城の人容軒原の孫なり文宗戊午に生れ世祖甲申文科に魁し重試及拔英試俱に中りて官吏曹參判に至り燕山君戊午に歿す群書に博通し詩文に名あり別に青坡劇談の著あり

李氏聯珠集

七卷 李一相等著板本

本書は延安李氏一相等従兄弟八人の合稿なり壺谷南龍翼曾て李氏諸兄弟と交遊せしを以て乃ち各人の詩を選ひ關東伯宋昌に囑して刊行せしものなり

李一相字は成卿青湖と號す明漢の子なり仁祖戊辰登科し官禮曹判書に至り文衡を典る文肅と諡す

李嘉相字は會卿氷軒と號す一相の弟なり仁祖丙子文科に中り害せらる

李萬相字は相如琴谷と號す嘉相の弟なり仁祖壬午司馬に中り天死す

李端相の小傳は集部靜觀齋集に出つ

李殷相の小傳は集部東里集に出つ

李弘相字は濟卿東郭と號す殷相の弟なり孝宗壬辰登科し官承文權知副正字に至る

李有相字は世卿東屯と號す弘相の弟なり顯宗庚子登科し官應教に止まる

李翊相字は弼卿梅澗と號す有相の弟なり孝宗辛卯進士に魁たり顯宗庚子登科し官吏曹判書藝文

都事に止まる北窓古玉と并に賢名有り鄭磻字は景舒萬竹と號す北窓の第二弟なり官府使に至り乙巳の僞勳に忝す鄭磻字は士清琴松堂と號す北窓の第五弟なり鄭之升字は子慎叢桂堂と號す十竹軒の子なり

○兩賢淵源錄

一卷 鄭 鵬著 板本

本書は新堂鄭鵬松堂朴英二人の詩文及其の墓誌行狀吊祭文挽詞等を收拾し一書となしたるものにして新堂は性理の學に沈潜し松堂就いて學ひ師弟の情甚た厚し金應祖の跋文に曰く新堂の學以て松堂を啓發するあり則ち淵源一脉概ね想見すへし云云肅宗四十六年庚子朴梶之を編次印行せり

鄭鵬字は雲程新堂と號す善山の人なり世祖丁亥に生れ成宗丙子進士となり壬午文科に登り燕山君の時弘文館校理を以て事を論し盈徳に杖竄せられ中宗靖國後復叙して校理となりたるも辭して赴かず其の壬申に歿す

朴英字は子實松堂と號す密陽の人なり家世將種

提學に至り文僖と諡す

南龍翼の小傳は集部壺谷集に出つ

○北窓古玉兩詩集

三冊 鄭 磻著 板本

本書は溫陽鄭磻鄭磻兄弟の遺篇を編輯せしものなり仁祖八年庚午蔡亨後鄭磻鄭磻の遺詩を集めて北窓古玉兩詩集と名つけ刊行し後正祖九年乙巳鄭磻七代の孫判書昌順其の逸稿及北窓墓記を集めて之を舊本に増補し尙は磻の弟磻磻及磻の子之升等の遺稿を附録し割刷に付せしものなり

鄭磻字は士潔北窓と號す溫陽の人なり幼時より攝神通神遠近の事を豫知し年十四にして明國に入り能く其の語に通し天文地理醫藥計數等討究せざるなし十九にして進士に中り更に舉業に應せず中宗の時抱川縣監を拜し忽ち官を棄てて楊州掛羅里に卜居し其の地に終る鄭磻字は君敬古玉と號す北窓の第三弟なり詩を善くし書に巧なり其の詩文多く東文選中に在り鄭磻字は可獻十竹軒と號す北窓の第四弟なり明宗の時登科し官

にして弓馬に習ひ豪邁不群武科に登り宣傳官に叙せられしも成宗殂落後燕山君の政亂るるを知り家を挈けて郷に歸り一意讀書し大學を鄭新堂に受け沈潜講究遂に大義に通せり後諸賢相繼ぎて入仕するに及び復た官に就き累遷して慶尙左道兵使を拜し中宗庚子遂に官に歿せり後諡を文穆と贈らる

○三節遺稿

一〇卷 尹 暹等著 板本

本書は南原尹暹尹棨尹集三人の遺稿にして宋時烈の序に曰く孝宗元年其の祖孫三人の遺詩文を收拾し宸獎を賜はり之を名けて三節と曰ふと此れ本書三節の名ある所以なり別に鄭斗卿の序宋浚吉の跋あり出版年時詳ならず

尹暹字は汝進果齋と號す南原の人なり明宗辛酉に生れ宣祖の時登科し官翰林南床吏郎に止まる李栗谷に従いて學ふ壬辰の役尙州軍敗るるに及び校理朴篔李慶流と同じく戦死す世に三從事と稱せり

尹棨字は信伯薪谷と號す果齋の孫なり仁祖の時

登科し官吏郎を歴て應教に止まる丙子の難に斥和の爲清兵に執はれ屈せずして殺さる

尹集字は聖伯、林溪と號す、薪谷の弟なり、仁祖の時登科し官吏郎校理に止まる、丁丑斥和を以て瀋陽に執送せられ、詬罵を逞うして屈せず遂に殺さる

○三隱合稿

四卷 田祿生等著 板本

本書は潭陽田祿生、貴生、祖生兄弟三人の詩文集、集めたるものにして、皆隱の字を以て號と爲す故に三隱合稿と名く、祿生十六世の孫愚の蒐集に係り、後孫乘淳の跋に、崇禎五庚寅と記し、卷尾に庚寅七月日恩津縣墨花齋開刊の字を録す、即ち李太王二十七年なり

田祿生字は孟耕、繼隱と號す、高麗末の人なり、廢王謁の時李仁任の迎元、貳明の議を非とし、鄭夢周、朴尙衷等の爭議に際し、李詹、全伯英等と共に抗疏して刑戮に遭へり

田貴生字は仲耕、未隱と號す、繼隱の第二弟なり、時事の非なるを見て、開城杜門洞より逃れて海に入り終る所を知らず

甲寅文科に登り、官參判に止まる、世祖丙子に端宗の復位を圖り、事覺れて、誅戮に遭へり、後忠正と諡す

成三問の小傳は、集部成謹甫集に出つ

李翌字は清甫、琅玕居士又白玉と號す、韓山の人なり、世宗丙辰文科に登り、官直提學に止まる、後忠簡と諡す

河緯地字仲章、丹溪と號す、晋州の人なり、世宗戊午魁科し、湖堂に選せられ、集賢殿直提學を歴て、禮曹參判に至り、後忠烈と諡す

柳誠源字は太初、文化の人なり、世宗甲子文科に登り、官司成に止まる、後忠景と諡す

俞應宇字は信三、杞溪の人なり、武科出身にして、官北兵使を歴て、副總管に至り、後忠穆と諡す

○六家雜詠

一卷 編者未詳 板本

本書は仁祖の時の醫官鄭柎壽字は子久、杏林と號す、崔奇男字は英叔、龜谷と號す、南應琛字は子貢、松坡と號す、鄭禮男字は子和、西疇と號す、金孝一字は行源、菊潭と號す、崔大立字は秀夫、蒼崖と號す、等六

田祖生字は季耕、耕隱と號す、繼隱の第三弟なり、高麗忠肅王五年に生れ、文科に登る、忠惠王曾て王子二人を託し、霍光諸葛の任を以てせり、元、江陵大君(恭愍王)を冊して王となし、忠定王乃ち位を江華に遜るに及び、祖生時に贊成たり、朴思慎、李岡、韓脩、申德麟等と共に扈して、江華に抵り、遂に死す、恭愍王四年なり

○樊悠合稿

二卷 金在華著 板本

本書は李太王己卯大提學金尙鉉か其の仲父樊泉、金在華及父悠悠翁金在崑の詩稿を編摩し、活字を以て印出したるものなり

金在華字は樊泉と號す、光山の人、光南君益勳六代の孫にして、英祖の時の人なり

○六先生遺稿

三卷 朴彭年等編 板本

本書は端宗の六忠臣朴彭年等の遺詩文を彭年の後孫崇古か哀輯して一書と成したるものにして、卷末に六人の筆跡及小傳を附す、出版は李太王十五年戊寅なり

朴彭年字は仁叟、醉琴軒と號す、順天の人なり、世宗

人の雜詩を蒐録したるものなるも、皆斷篇零句にして、其の事蹟亦鄭柎壽が醫官たりしと云ふの外考ふべきなし、出版は顯宗九年庚子とす

○文苑補載

四五卷 正祖編 板本

本書は正祖猶は春宮に在りし時、詞苑英華の編あり、即ち本書の前身なり、本書總て四十四卷中に別篇四卷を合す、收むる所、玉冊文、頌教、慰諭、教文、教命、文、竹冊文、祭文、哀冊文、上樞文、賜祭文、教書、其の他、國書、布等に、して多くは館閣諸臣の製進に係れり、國書中に答日本書、回琉球書、露布に、破平壤城、假賊露布等あり、序は金鍾秀、跋は李福源の撰なり、本書鈔梓に方りて、考訂を徐命膺に、重訂を鄭昌聖、李時秀、徐鼎修等に、監印を鄭昌順、李德懋、柳得恭等に、命す、時に正祖丁未なり

○文苑補載續編一

○卷 哲宗命編 板本

本書は曩に正祖丁未館閣諸臣の文章を選聚して之を文苑補載と云へり、哲宗壬子に至り、復た奎章閣諸臣に命して、正祖以後館閣諸臣の作を、揀摭し之を編成して、文苑補載續編と名け、金興根等に命

して考訂せしめ活字を以て印行したるものなり

○壬寅慶載軸 一卷

板本

本書は成宗十一年壬寅元旦内宴の時蓬原府院君鄭昌孫、月山大君、嬪德原君、曙、河城府院君、鄭顯祖、右議政洪應、宣城府院君、盧思慎、領中樞府事、李克培等、廣和の詩を載録す、卷首に鄭昌孫の序あり

○壬寅慶載軸 一〇卷

板本

本書は成宗十三年戊寅元日世祖妃懿敬世子妃、睿宗妃に壽を獻する時慶宴に參列せし宗親、宰輔、侍從諸人が廣和したる詩を校書館に於て印出し、應製諸臣に頒賜したるものなり

○廣載軸 三冊

板本

○聯韻軸 二冊

板本

本書は正祖賜宴の際閣臣等か製進せる聯韻を纂輯せしものにして、乙卯華城奉壽堂進饌廣載軸、同將臺閣武廣載軸、同洛南軒養老廣載軸、同慈宮周甲誕辰廣載軸を合せて一卷となし、戊申内苑賞花廣載軸、壬子、癸丑、甲寅、乙卯各年に於ける同聯軸、辛亥、壬子、甲寅、乙卯各年に於ける洗心臺聯韻軸を合せ

○聯韻軸 二〇卷

正祖命編 板本

本書は正祖十六年壬子十二月雪中春塘臺に親臨

○温幸陪從錄 一冊

編者未詳 板本

本書は英祖か其の二十六年庚午に温陽温泉の離宮に臨みたる時扈從の諸臣と唱和したる詩什を蒐録し、上木したるものにして、卷尾に諸臣の姓名員數を詳録す

○東省校餘集 二卷

鄭元容編 板本

本書は正祖の全集弘齋全書の校正監印に従事したる閣臣、海石、金載瓚、楓、阜、金祖、淳、斗、室、沈象奎、思、穎、南、公、輒、竹、石、徐、榮、輔、敦、岩、朴、宗、慶、金、石、李、存、秀、竹、里、金、履、喬、宜、溪、朴、宗、薰、灘、樵、李、魯、益、莊、館、李、龍、秀、小、華、李、光、文、經、山、鄭、元、容、完、谷、朴、綺、壽、丹、阜、李、鶴、秀、等、の唱酬を

○太學恩杯詩集 五卷

編者未詳 板本

本書は正祖二十二年戊午大學に臨み親試の時酒を賜ひ、仍て孝宗の故事に依り、杯心に詩經鹿鳴の語、我有嘉賓の四字を鐫刻したる銀杯を賜ひ、大學に藏することとなし、時の文臣、大學生、各上箋稱謝したるを、後哀輯して上下二卷となし、割闕に付したるものなり、卷首に正祖の詩、並に序解を載せ、勸學獎勵の意を示す

末を知るべきなり刊印は純祖甲戌なり

鄭元容の小傳は史部國朝寶鑑に出つ

○農淵挽別 一卷 編者未詳 寫本

本書は農巖金昌協三淵金昌翁兄弟の詩集中より挽詞と別章を揀取して抄寫したるものなり

○浮碧樓觴詠錄 一卷 林 悌編 板本

本書は白湖林悌が宣祖十七年金璽玉黃應時李應清金雲舉盧景達沈南坡金溟翰盧大敏其の他の諸人と平壤浮碧樓に遊ひし時の酬唱を集めたるものなり

林悌の小傳は子部花史に出つ

○晚德唱酬錄 二卷 朴光一編 板本

本書尤菴宋時烈が濟州に流配せられたる時弟子朴光一等が途次に唱酬したる詩を哀録し日記と尊珍唱酬錄を附したるものにして純祖辛酉光一の孫夏鎮之を刊行す

朴光一の小傳は集部遜齋集に出つ

○古今詠物近體詩 三二卷 劉在建編 寫本

本書は古今の詠物詩を選録したるものにして選

者は劉在建なり

劉在建字は徳初兼山と號す江陵の人玉川府院君敵の後孫なり正祖癸丑に生れ李太王の時官上護軍に至り庚辰に歿す幼より聰明にして神童の稱あり詩禮に篤く又篆楷に工にして久しく奎章閣に供奉し列聖御製を編摩したる功勞多く爲に屢恩典を被る然れども家世世寒微なりしを以て官胥史に止り世之を惜む外に法語兼山筆記風謠三選等の著あり

○皇華集 五〇卷 板本

本書は世宗三十二年より仁祖十一年に至るまで百八十三年間明の使節が往復滯留の際賦詠したる詩歌及之と唱酬したる朝鮮遠接使の作を合せて編輯し一部となしたるものにして英祖の序あり蓋し皇華集なるものは明使節の來往毎に編纂し前後二三に止まらず本書は之を集めて大成したるものなり

○世祖庚辰皇華集 一卷 板本

本書は世祖五年明の張寧頌が勅諭使として朝鮮

に來到せし時遠接使朴元亨等と酬和したる詩賦を蒐録したるものなり

○仁祖甲戌皇華集 四卷 板本

本書は仁祖四年明の頌皇太子誕生詔使姜日廣が遠接使金瑩等と酬和したる詩賦を蒐録したるものなり

○仁祖丙寅皇華集 三卷 板本

本書は仁祖十一年明の安島衆聯屬國勅使程然奉か接伴使辛啓榮等と唱和したる詩賦を蒐録したるものなり

○楊御史頌德詩稿 一卷 編者未詳 板本

本書は宣祖壬辰の役明の御史楊鎬鎬經理を以て朝鮮に駐紮せし時李德馨等三十餘人の頌德詩を集めたるものなり

○雅誦 八卷 正 祖編 板本

本書は正祖が漢魏の辭賦其の他に就き撰定せしものにして其の自序に曰く之を撰むは刪經に類し之を彙するは風雅の分篇に倣ひ銘贊を以て之に系るは三頌に倣ひ雅誦を以て之に命するは聖

人の雅言に倣ふ云云と收むる所詞賦琴操四首古近體詩三百五十九首銘贊題辭詞文勸學文等四百十五首なり其の二十三年之を割闕に付す

○唐宋八子百選 六卷 正 祖編 板本

本書は唐宋八大家文の中百篇を選輯したるものにして正祖の選に係る第一卷に表上書荀子第二卷に論策第三卷に書序第四卷に記第五卷に撰著第六卷に碑墓誌墓表傳祭文等を按排す

○詞垣英華 六卷 正 祖編 寫本

本書は正祖春邸に在りし時の編成に係り弘齊全書群書標記に詞苑英華として載するもの即ち是なり此の書は實に文苑翰賦の前身にして收む所朝臣の製進せし頌教文教命文祭文等なり

○杜陸千選 八卷 正 祖編 板本

本書は正祖の選にして杜律五七言陸律五七言各五百首を拔萃し分ちて八篇となし活字を以て印出せしものなり

○奎華名選 三三卷 正 祖編 板本

本書は奎章閣諸學士の應製文にして甲乙兩篇共

に正祖壬子の哀輯なり奎章閣は實に其の即位初年の勅設に係る世祖の故事に遵ひ宋の龍圖天章と揆を一にするものなり而して甲篇は李時秀、金載瓚等凡そ十六人乙編は沈晋賢、李翼晋、李顯道外數人にして共に其の十七年の印出に係れり

○ 文史咀英

八卷 憲宗編 板本

本書は憲宗潛邸に在りし時誦習に便するため宋の歐陽修及蘇軾の文章各若干篇を選定し釐めて八卷となし上木したるものにして出版は純祖二十九年己丑なり

○ 詞曲源流

一卷 編者未詳 寫本

本書は朝鮮の俗歌音曲及昔人の作に係る歌詞を諺文を以て記したるものなり編者及年時詳ならず

○ 唐律廣選

七卷 李敏求編 寫本

本書は東洲李敏求か唐の律詩を分類選輯したるものにして其の序に曰ふ初唐盛唐は十に其の九を挙げ中唐は五に其の三を挙げ晚唐は三に其の一を存し杜甫の如きは此に並録せずと仁祖甲戌

の刊行なり

李敏求の小傳は集部東洲集に出つ

○ 全唐近體選

二〇卷 申緯編 寫本

本書は翼宗東宮に在りし時江華留守申緯に命じて選せしめしものなり唐詩近體數百首を收む申緯の小傳は集部警修堂詩選に出つ

○ 科題各體

一冊 寫本

本書は純祖戊子より癸巳に至る六年間に亘る有司の試題を集録せるものなり朝鮮設科取士の法六科あり詩、賦、表、策、義、疑是なり之を科文六體と云ふ又科舉に殿庭親試と有司試取との二種あり

○ 科文

一冊 寫本

本書は朝鮮科製文の中策、論、頌、銘、箴等數篇を騰寫したるものなり

○ 科作

二冊 寫本

本書は英祖末年の科試に魁たりし文字を集寫せしものなり科舉狀元の詩文を科作と稱するか故に俗に從て命題せるものなり

○ 儂文程選

八卷 李植編 板本

本書は唐宋名家の表、啓、狀、書等各體を選輯し後學儂文肄習の爲にせるものなり朝鮮中葉以後一時盛に行はれ苟も科業に志す者にして本書を讀まざるはなかりしといふ

李植の小傳は經部初學字訓增輯に出つ

○ 儂文集成

一八卷 金鎮圭編 板本

本書は竹泉金鎮圭か肅宗壬辰後學の爲に明人其の他諸名家の儂文を集成したるものにして詔、赦、文冊制批答表狀、議、啓、露布、檄、牒、序、碑、連珠、判等の各體あり序に曰ふ典翰趙仁奎の類編は繁にして精ならず澤堂の程選は偏に失し息菴壺谷の抄する所は略に病む云と

金鎮圭の小傳は集部竹泉集に出つ

○ 時儂

一卷 寫本

本書は周越裳氏使者進白雉、明劉基進瑞麥頌、朝鮮盧守慎進輿地勝覽、同進夙興夜寐箴解其の他儂文數十首を收む

○ 東策

二卷 寫本

本書は英祖の時登第諸人の對策文を收録したる

ものなり李光佐等の甲申別試を初め洪啓禧等の丙申別試會試其の他翰林召試等四十餘名か國家の治術並に時幣救濟の便宜方策を論したるものなり

○ 科詩二選

一卷 編者未詳 寫本

本書は朝鮮科詩中歌詞に登りて妓伶輩の多く唱傳せる申光洙の關山戎馬詩一首及李緯の竹枝詞一首を寫したるものなり

申光洙字は聖淵、石北と號す高靈の人、僉知濫の子なり肅宗壬辰に生れ英祖壬辰に漣川縣監を以て耆老科に魁たり官承旨に止り乙未に歿す功令文を以て名を著はし尤も詩に工なり
李緯の小傳は集部陶庵集に出つ

○ 正始文程

三卷 正祖命編 板本

本書は正祖の命編に係る、正祖屢教を下して科舉應製の文甚た善からざるを戒飭す其の十九年乙卯に至り偶々母宮還曆の慶事あり春塘臺に臨み親しく文臣を試み又大學生に命じて應製せしめ占魁の詩、賦、表、諸篇を拔萃し命じて印行せしめた

集部

るもの即ち是なり

○ 瓊林聞喜錄

三卷 正祖命編 板本

本書は正祖十五年辛亥題を成均館に下し賦表古詩長律四體を館學諸生及諸蔭官に命して製進せしむ時に應製せし者實に三千人正祖親しく考して九十人を選ふ本書に收むるもの即ち是なり當時司會に膺りしは南公轍とす

三五二

朝鮮圖書解題 終

大正四年三月二十八日印刷
大正四年三月三十一日發行

朝鮮總督府

日韓印刷株式會社印刷

41714-38

終